

○ 本校の概要

- 学校規模……児童数:883名・学級数:27学級・教職員数:校長1、副校長1、教員36、事務1、栄養士1、カウンセラー2、講師6
- 本校の教育目標……よく考える子ども 思いやりのある子ども がんばる子ども じょうぶな子ども
- 本年の主な取組……校内研究:教科(理科)
- 特色ある教育活動……国際交流(東京工業大学留学生・東京朝鮮第六初級学校) 池雪いきいき応援隊(学校支援地域本部)と連携した教育活動 校内研究と授業観察を関連づけた授業改善

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	学校関係者記入欄
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にやがて対応する子どもを身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 ICT機器を効果的に活用して、互いの考えを共有し、自分の考えを深める学習活動を取り入れている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:90%以上	○「タブレットを使うことは、自分の学習の役に立っている」と肯定的に回答した児童は95.7%。 ○「タブレットを使って、友達と意見の交流をしている」と肯定的に回答した児童は80.5%。 ⇒以上のアンケート結果より、タブレット端末を利用した授業展開はほぼ実現できているが、コミュニケーションの機会を設定することに課題が見られる。	A	○ICTの活用は適切に積極的にこなれていると感じます。「友達との交流」は、学習に限って促進することが、難しい面もあるかもしれません。 ICTならではの「今教室にいない」他学年、他校、日本各地、外国などとの交流ができると、可能性と視野が大きく広がります。 ○タブレットでの教育が増えてきているが、児童同士のコミュニケーションの機会を増やす機会を確保していただきたい。 ○コミュニケーション力は、今後知力と同様に重要視されるものと思います。対面での交流などで、子供の頃から鍛えることが大事ですが、コロナ禍では難しい局面も多くあると思います。今後子ども達のコミュニケーション能力の向上に尽力されることを期待します。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	○「タブレットを使うことは、自分の学習の役に立っている」と肯定的に回答した児童は95.7%。 ○「タブレットを使って、友達と意見の交流をしている」と肯定的に回答した児童は80.5%。 ⇒以上のアンケート結果より、タブレット端末を利用した授業展開はほぼ実現できているが、コミュニケーションの機会を設定することに課題が見られる。	B	○コミュニケーション力は、今後知力と同様に重要視されるものと思います。対面での交流などで、子供の頃から鍛えることが大事ですが、コロナ禍では難しい局面も多くあると思います。今後子ども達のコミュニケーション能力の向上に尽力されることを期待します。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「タブレットを使うことは、自分の学習の役に立っている」と肯定的に回答した児童は95.7%。 ○「タブレットを使って、友達と意見の交流をしている」と肯定的に回答した児童は80.5%。 ⇒以上のアンケート結果より、タブレット端末を利用した授業展開はほぼ実現できているが、コミュニケーションの機会を設定することに課題が見られる。	C	○タブレットは、調べ学習をしたり表現をしたり、とても活用されていると思う。PCを使用するの慣れに感じていたが、他の意見を知り、意見の交流をもつ事も大切。タブレットが多様に活用されていると思う。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	D	○タブレットは、調べ学習をしたり表現をしたり、とても活用されていると思う。PCを使用するの慣れに感じていたが、他の意見を知り、意見の交流をもつ事も大切。タブレットが多様に活用されていると思う。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	A	○算数少数人数などの学習能力アップを施策として、各児童の学習能力アップに期待できる。 ○子どもたちが、進んで学習に取り組む習慣を身につけることは、これからの人生にとって、とても大切なことだと思います。先生方の日頃の努力や熱意に敬意を表します。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:85%以上	○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	B	○概ね、十分な取り組みがされていると思います。ステップ学習チェックシートは、いまいち活用がされていないかな(通知表を添削する時に慌ててまとめて押印する書類というイメージ)と感じるので、いい読み取り方、活用方法を広めてほしいかと思っています。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上	○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	C	○1学年30名以上の児童に対し、同じ進んで授業を行う事は、大変な事だと思ふ。90%以上の児童が授業がよく分かるかと回答があった事は、先生方のご努力だと感じている。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	D	○1学年30名以上の児童に対し、同じ進んで授業を行う事は、大変な事だと思ふ。90%以上の児童が授業がよく分かるかと回答があった事は、先生方のご努力だと感じている。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	A	○算数少数人数などの学習能力アップを施策として、各児童の学習能力アップに期待できる。 ○子どもたちが、進んで学習に取り組む習慣を身につけることは、これからの人生にとって、とても大切なことだと思います。先生方の日頃の努力や熱意に敬意を表します。
			プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 問題解決的な学習の充実を図る授業に取り組み、主体的対話的で深い学びのある指導を目指している。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:85%以上				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	B	○概ね、十分な取り組みがされていると思います。ステップ学習チェックシートは、いまいち活用がされていないかな(通知表を添削する時に慌ててまとめて押印する書類というイメージ)と感じるので、いい読み取り方、活用方法を広めてほしいかと思っています。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	C	○1学年30名以上の児童に対し、同じ進んで授業を行う事は、大変な事だと思ふ。90%以上の児童が授業がよく分かるかと回答があった事は、先生方のご努力だと感じている。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	D	○1学年30名以上の児童に対し、同じ進んで授業を行う事は、大変な事だと思ふ。90%以上の児童が授業がよく分かるかと回答があった事は、先生方のご努力だと感じている。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	A	○算数少数人数などの学習能力アップを施策として、各児童の学習能力アップに期待できる。 ○子どもたちが、進んで学習に取り組む習慣を身につけることは、これからの人生にとって、とても大切なことだと思います。先生方の日頃の努力や熱意に敬意を表します。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:85%以上				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	B	○概ね、十分な取り組みがされていると思います。ステップ学習チェックシートは、いまいち活用がされていないかな(通知表を添削する時に慌ててまとめて押印する書類というイメージ)と感じるので、いい読み取り方、活用方法を広めてほしいかと思っています。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	C	○1学年30名以上の児童に対し、同じ進んで授業を行う事は、大変な事だと思ふ。90%以上の児童が授業がよく分かるかと回答があった事は、先生方のご努力だと感じている。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	D	○1学年30名以上の児童に対し、同じ進んで授業を行う事は、大変な事だと思ふ。90%以上の児童が授業がよく分かるかと回答があった事は、先生方のご努力だと感じている。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上				○「学習に力を入れている」と肯定的に回答した児童は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもっているという実感をもっていることが分かる。	A	○算数少数人数などの学習能力アップを施策として、各児童の学習能力アップに期待できる。 ○子どもたちが、進んで学習に取り組む習慣を身につけることは、これからの人生にとって、とても大切なことだと思います。先生方の日頃の努力や熱意に敬意を表します。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみまします。	中小一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 道徳で、いじめをテーマにした授業を学期に1回実施し、生命尊重の心の育成に各教科の指導を通して取り組んでいる。				4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	B	○自己肯定感を高めることは、子供たちの潜在的な力を引き出し、未来への可能性を広げるためには、とても大切なことだと思います。子供に関わる大人たちの意識の変化も必要だと思います。
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	C	○児童数がとても多い学校なので一人一人に相対することが難しい中、80%以上が肯定的に良いことだと感じている。児童数が多い分、子ども達同士で高めあう事もあふかかっている。
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	D	○児童数がとても多い学校なので一人一人に相対することが難しい中、80%以上が肯定的に良いことだと感じている。児童数が多い分、子ども達同士で高めあう事もあふかかっている。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	A	○肯定的に答えていなくても、控えめなだけ、というお子さんがほとんどかと思いますが、これからのグローバル社会で生きるためには、素直に「自分が好き」と表現できることは、とても強みになるので、他者に認められようという気持ちと同時に「自分で自分の良さ、強みを理解し、自分を大切にすることの良さを知ってもらえるといいかと思っています。」
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	B	○自己肯定感を高めることは、子供たちの潜在的な力を引き出し、未来への可能性を広げるためには、とても大切なことだと思います。子供に関わる大人たちの意識の変化も必要だと思います。
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	C	○児童数がとても多い学校なので一人一人に相対することが難しい中、80%以上が肯定的に良いことだと感じている。児童数が多い分、子ども達同士で高めあう事もあふかかっている。
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	D	○児童数がとても多い学校なので一人一人に相対することが難しい中、80%以上が肯定的に良いことだと感じている。児童数が多い分、子ども達同士で高めあう事もあふかかっている。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は83%。 ○「あなたは、学校の中で、大切にされていると思いますか。」に肯定的に回答した児童は81.9%。 ⇒8割以上の児童が、自尊心や自己有用感が高いが、他のアンケート項目と比べ否定的な回答をしている児童の割合も高い。	A	○肯定的に答えていなくても、控えめなだけ、というお子さんがほとんどかと思いますが、これからのグローバル社会で生きるためには、素直に「自分が好き」と表現できることは、とても強みになるので、他者に認められようという気持ちと同時に「自分で自分の良さ、強みを理解し、自分を大切にすることの良さを知ってもらえるといいかと思っています。」
			プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心や運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 一校一取り組み(長縄跳び、持久走、短縄跳び)を通して、体力向上に取り組み、休み時間の外遊びを励行する働きかけを行っている。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上
4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	B	○最近、他者と比べられることを嫌う子どもが増えたと感じます。前述の自己肯定感の低さの影響も考えられます。子どもたちは、体を動かすことの楽しさを知って欲しいと思います。
4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	C	○児童の個々の特性もあり、外遊びの好きな子、苦手な子もいて、スポーツに関しては、同じかと感じる。しかし、スポーツの種類によって児童の感じ方も違うのかと感じている。児童数に対して、校庭も狭く大変だと感じている。
4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	1:80%未満				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	D	○児童の個々の特性もあり、外遊びの好きな子、苦手な子もいて、スポーツに関しては、同じかと感じる。しかし、スポーツの種類によって児童の感じ方も違うのかと感じている。児童数に対して、校庭も狭く大変だと感じている。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	A	○体育の授業や運動会の練習にもタブレットを活用した分かりやすい解説を入れている(大工、工夫はされている)と感じます。体育の授業や運動の時間だけでなく、屋内でも、ちよつと体を動かすという取り組みも良いかと思っています。
4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	B	○最近、他者と比べられることを嫌う子どもが増えたと感じます。前述の自己肯定感の低さの影響も考えられます。子どもたちは、体を動かすことの楽しさを知って欲しいと思います。
4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	C	○児童の個々の特性もあり、外遊びの好きな子、苦手な子もいて、スポーツに関しては、同じかと感じる。しかし、スポーツの種類によって児童の感じ方も違うのかと感じている。児童数に対して、校庭も狭く大変だと感じている。
4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	1:80%未満				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	D	○児童の個々の特性もあり、外遊びの好きな子、苦手な子もいて、スポーツに関しては、同じかと感じる。しかし、スポーツの種類によって児童の感じ方も違うのかと感じている。児童数に対して、校庭も狭く大変だと感じている。
4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上				○「授業や体育朝会、縄跳び、持久走を入れている」と肯定的に回答した児童は79.6%。 ⇒80%を下回る結果となった。運動については、運動する児童としない児童の二極化が見られる。	A	○体育の授業や運動会の練習にもタブレットを活用した分かりやすい解説を入れている(大工、工夫はされている)と感じます。体育の授業や運動の時間だけでなく、屋内でも、ちよつと体を動かすという取り組みも良いかと思っています。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 年3回の授業観察後、自己申告の面談において、自己評価カードをもとに協議し、指導法の改善に取り組んでいる。				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	B	○授業の工夫については、どの先生方も熱心に取り組まれ、先生同士の交流も活発で素晴らしいと思います。「決まりを守れない」児童へのアプローチが、やや疑問に感じるシーンもあるのでは、引き続き研究していただくと良いかと思ふ。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	C	○保護者の方々の肯定的な意見が多く良かったと思います。学校公開や、子ども達の日々の学校生活の成果が受け入れられているのかと感じる。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	D	○保護者の方々の肯定的な意見が多く良かったと思います。学校公開や、子ども達の日々の学校生活の成果が受け入れられているのかと感じる。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	A	○校長先生や副校長先生の児童に分りやすい説明(話し方はよく素直らしく、大人も聞き入ってしまうくらいなので、管理職が分りやすい授業を行っているから先生や児童たちが先生の言うことを聞いていると思う。 ○授業参観の復活など、実際に子どもたちの姿を見るのができたことによる評価だと思ふ。 研修などリアルに相手で行えと先生方のスキルアップにつながることを期待します。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	B	○授業の工夫については、どの先生方も熱心に取り組まれ、先生同士の交流も活発で素晴らしいと思います。「決まりを守れない」児童へのアプローチが、やや疑問に感じるシーンもあるのでは、引き続き研究していただくと良いかと思ふ。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	C	○保護者の方々の肯定的な意見が多く良かったと思います。学校公開や、子ども達の日々の学校生活の成果が受け入れられているのかと感じる。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	D	○保護者の方々の肯定的な意見が多く良かったと思います。学校公開や、子ども達の日々の学校生活の成果が受け入れられているのかと感じる。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学校は、お子さんの学力の定着・向上のために、工夫した分りやすい授業を行っている」と肯定的に回答した児童は90.2%。 ⇒9割以上の保護者が肯定的に捉えている。	A	○校長先生や副校長先生の児童に分りやすい説明(話し方はよく素直らしく、大人も聞き入ってしまうくらいなので、管理職が分りやすい授業を行っているから先生や児童たちが先生の言うことを聞いていると思う。 ○授業参観の復活など、実際に子どもたちの姿を見るのができたことによる評価だと思ふ。 研修などリアルに相手で行えと先生方のスキルアップにつながることを期待します。
			プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 家庭学習を推奨し、毎日適切な課題を提示する。また、学年の発達段階に応じて、タブレットを活用した課題に取り組ませている。	4:1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:90%以上	○「学校は、保護者や学校・地域と連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります」と肯定的に回答した児童は88.8%。 ⇒学校長が学校HPにより週に1回以上子どもたちの様子を掲載するなど、情報発信をしていることを始め、学級便りなどで情報を発信している。
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上			○「学校は、保護者や学校・地域と連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります」と肯定的に回答した児童は88.8%。 ⇒学校長が学校HPにより週に1回以上子どもたちの様子を掲載するなど、情報発信をしていることを始め、学級便りなどで情報を発信している。	B	○総評 大田区内児童数が多い池雪小学校ですが、校長先生始め副校長先生、他の先生方の熱意あるご指導で児童達が伸び伸びと育ちあっている事に、感謝の念で一杯です。これからもプラス地域の方のお助けを借りながら子ども達に幸せに過ごさせよう心から祈っております。ありがとうございます。	
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上			○「学校は、保護者や学校・地域と連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります」と肯定的に回答した児童は88.8%。 ⇒学校長が学校HPにより週に1回以上子どもたちの様子を掲載するなど、情報発信をしていることを始め、学級便りなどで情報を発信している。	C	○情報発信は、可能な方法で適切にされていると思います。「校長室より」は楽しみながら読んでほしいと思います。学年だよりのアップが時々なると聞いて、ルーティンで月日にアップされるようになると、していただくいいかと思ふ。	
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満			○「学校は、保護者や学校・地域と連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります」と肯定的に回答した児童は88.8%。 ⇒学校長が学校HPにより週に1回以上子どもたちの様子を掲載するなど			